



後うことこそ、それは生きること！

ジャン・ペンケレシ神父

私たちは毎日の生活で自然の様々な法則に従っています。その中で万有引力は最も重要で身近なものではないかと思えます。その法則に従って水が下の方へと流れるので、ビルの屋上のタンクにつないでいる家の水道パイプから水が勢いよく流れます。引力の法則に従うことによってその法則は私たちのために働いてくれて、多くの恩恵をもたらします。

もし万有引力がなかったら、物資は粉々のままで、太陽、地球は存在していませんでした。万有引力は宇宙が形作られるために必要であり、世界が存在するための条件です。

霊の世界も法則に従っています。第一の法則は創造主であり父である神を愛することです。イエスはマルコ福音書12章28～30節に言っています。(申命記6:4も同じ)

「第一の掟は、これである。「イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」（“主”は“ヤーウェ” [私はある]初めもなく終わりもない永遠の存在)

自由意志を備えた人間の心は、知らず知らずのうちに、強く神の愛に惹かれています。これは霊の万有引力のような法則です。人は神から生を受け、毎日必要な糧と多くの良いもので命が支えられています。キリストの十字架と復活によって赦され、永遠の命を与えられるのです。それを知った人は、自然にその愛に応えて神を愛するようになります。しかし人間は自己中心的であり十分に神を愛することが出来ないのです、神はその愛に応えようとする人に聖霊を与えて、心に住ませ、神を愛する心に変えてくださいます。

神を愛することは具体的に何でしょうか。それは、心の中で、生活の中で、神を第一にすることです。愛する人は相手をどんなものよりも大切にします。そして、神の素晴らしさ、その望んでおられることをよりよく知るように努めて、神が望んでいることを喜んで行います。愛することはまた、神にすべてをゆだねることです。お金、収入、健康や才能、ついでに地位、名誉などを頼りにすることなく、それらの与え主だけを頼りにすることです。苦しみ、困難、困窮の時も、揺るぎなく神に信頼することです。

なお、神をいちばん大切にしていると、自然に、その恵みを感謝して、神の素晴らしさを喜び、褒め称えます。賛美と感謝は神を愛する一つのしるしです。

住吉小教区評議会議事録

- 1 日時 2018年9月16日(日) 11:22~12:34
- 2 場所 第2会議室、出席者17名
- 3 次第 始めの祈り

星の園幼稚園からの連絡事項 10月6日(土) 9:15 運動会
行事予定確認(ミサお知らせ及び議題に集約)

- 議事① 10月28日(日) 10:30 バイリンガルミサ(Fr 、Fr)
ミサ次第:入祭・奉納・閉祭の歌 スペイン語、奉納行列(日、ス)
第1朗読 スペイン語、 答唱詩篇 日本語、 第2朗読 日本語、
福音書朗読、説教 バイリンガル、共同祈願 日本語とスペイン語
拝領の歌 主は水辺にたった(日、ス)
ミラグロス27周年、奇跡の主行列、イベント。住吉教会 HP 掲載
*例年どおり 準備:御絵 9/30 ミサ後又は 10/1 に聖堂に安置
10/27(土) 前日準備 おみこし設置、旗等設置
当日 イベント時間は17:00まで。日没までに片付け、撤収。
行列は例年どおり、門の中から園庭周回コースとする。
調理はキッチンを使用し、アルコールは禁止とする。

議事② 墓地委員会報告

- 11月3日(土) 11:00 教区納骨者および死者祈念ミサ
カテドラル大聖堂で前田枢機卿司式
11月4日(日) 9:30 住吉教会死者祈念ミサ
聖堂でエマニュエル神父司式
14:00 神戸地区合同追悼祭
鶴越墓園(とべら地区納骨所)
及び舞子墓園納骨所

5月教区追悼ミサ(甲山墓園) 17名参加。会費と支出の
差額を住吉教会から補助支出、承認。

- 議事③ 11月11日(日) 住吉教会フィエスタ準備経過(2回実行委員会
開催済)ペルー料理:アロス・コンポイヨとターキーサンド用意。
パウロ書店:車で書籍、カレンダー、手帳等借用し、実施後返却
精算。 予約申出受付可

- 議事④ 11月18日(日) ミサ(Fr エマニュエル)、七五三お祝い

- 議事⑤ 12月2日(日) 待降節第一主日ミサ(Fr)

待降節黙想会講話: Sr 山口様から2学期は多忙につき、ご辞退の書状受理
講師: 、宇治カルメル会には未連絡未訪問(四旬節)

- 議事⑥ 傘木神父様ミサ説教(4年間で約100巻、CD-ROM)のテープ起こしと活字入力
作業メンバー募集(宣教チーム)承認。

司祭指示: 傘木神父様の遺言により、出版等禁ずる。“すみよし誌”に提供 し、掲
載、住吉教会信徒及びゆかりの神父様、シスター(すみよし誌送付先)にお読み頂く
ことで一致した。

議事⑦ 冷蔵庫購入（9/16注文、9/18支払い）、501ℓ、東芝製

議事⑧ 夏のバーベキュー収支（中間）報告

参加者：神父様2名、大人42名、中高生12名、子供14名
計70名が参加、楽しく盛況でした。感謝いたします。

収入：会費、寄付、残り材料買上、ビール代カンパ

支出：仕入れ、但し、プロパンガス貸与料未精算。

精算後報告

終わりの祈り

☆次回 11月18日（日）11：00～

セニョール・デ・ロス・ミラグロスについて

その起源は350年以上前の出来事に由来します。スペインによる統治時代の1651年、ある敬虔な黒人奴隷が南米ペルーの首都リマのパチャカミリヤ地区（当時リマの中でも特に貧しい人々の住む地域だった。）のアドベ（日干しレンガ）造りの壁に主キリストの磔刑像を描きました。

数年後の1655年11月13日の大地震でリマ周辺は多大な被害をこうむりましたが、不思議なことにこの絵が描かれた壁だけは崩れ落ちることもなく、壁画にもまったく損害はありませんでした。

その後1670年にアンドレス・レオンという人が全く見捨てられていたこの壁の周りの塵を払い、花やローソクで飾りつけ、屋根をつけました。彼は数年来悪性腫瘍を患っていましたが、毎日この絵の前にひざまずき、「どうか治りますように」と祈っていました。すると腫瘍は少しずつ消え始め、やがて完治してしまったので、地域に暮らす人たちを中心に少しずつ信仰されるようになりました。

その後1687年10月20日にも大地震が起き、数千人の命が一瞬にして奪われた惨事の中で、今度もこの壁は無傷のままでした。そのころからこの絵は奇跡のシンボルとされ、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）」と呼ばれるようになり、聖画像を戴いた御輿を担いで奇跡をたたえるプロセシオン（聖行列）が行われるようになりました。

この御輿の表側には上述の磔刑のキリスト像、もう一方の側には1696年に北隣の国エクアドルに現れた聖母マリア「ビルヘン・デ・ラス・ヌベス」の絵が描かれています。

聖行列に際し、信徒たちは主キリストのご受難にちなみ、紫色の衣を身に着け白い帯を腰に巻いて参加します。

セニョール・デ・ロス・ミラグロスは今ではリマのみならずペルー全体の国民的行事となっており、ペルー以外でもそこに住むペルー人たちによって行われるようになってきました。住吉教会では1991年から行われるようになり今年**27周年**になります。遠く母国を離れて暮らしているペルーの人たちの最大の宗教行事に私たちも一緒に参加して共に祈りを捧げたいと思います。

今年は10月28日（日）10：30 ミサ

ミサ終了後 聖行列

聖行列終了後フィエスタを催しますのでペルー料理や音楽、民族舞踊等をお楽しみください。